

た2人は落ち着いていた。好調の坂本勇人を遊ゴロに仕留め、山本泰寛を空振り三振。1点を失った瞬間に敗退が決まる九

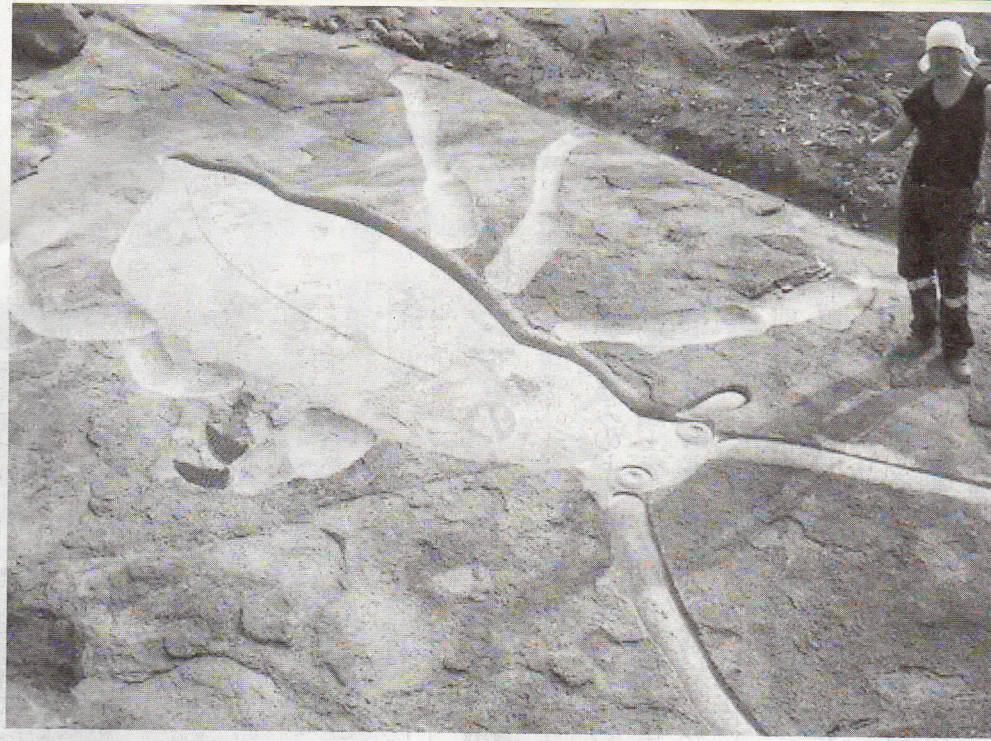
スを見せた。あるチーム関係者が明かす。「あの瞬間、別室で見ていたスタッフの中には涙を流していた。

う。その日、横浜スタジアムでは一足先に1軍の試合が終わっていた。勝って初のCS進出が決定し、ファンと選手たちが歓

「ウルトラマン」を演出した実相寺昭雄監督の没後10年の追悼なども兼ねた。ほかの4人は女優の川崎

# 野生稲 保全訴える彫刻完成

貴重な野生稲の保全を彫刻で訴えてきた横浜市出身の故・田辺光彰さんの遺作が、オーストラリアで完成した。田辺さんの



完成した昆虫の彫刻

## 豪の自生地 父の遺作仕上げる 御影石に大作



シートを張り、日光を遮って作業する彫刻家。いずれもオーストラリア北部準州

長男陵光さん(46)が豪政府の助成金を受け、8月末にオーストラリアの現地を訪問。彫刻家2人とともに、1カ月かけて未完成だった父の作品を仕上げた。炎熱下の仕事だったが、陵光さんは「過酷な条件の中で仕事をした父の熱意を実感できた」と話している。

現地は乾期で、37度程度の炎熱が続いた。このため、落ちていた木を支柱にしてシートを張って日陰を作ったが、汗みどろの作業だったという。

現場はオーストラリア北部準州の中心都市ダーウイン南東の湿地帯。世界的に減少している野生稲の自生地近くにある。昨年、76歳で亡くなった田辺さんは許可を得て約10年前から御影石に稲のみや、アリ、トカゲなどを彫ってきた。もみを表現した彫刻では長さ約82センチにわたる大作もあり、未完になっていた。参加した彫刻家は山添潤さん(44)と明田一久さん(45)。もみの大作はほぼ出来上がっていたが、残りの5センチほどを研削盤で削ったり、ノミと金づちで打ったりして仕上げた。また、近くに未完で残っていた昆虫の彫刻も下絵を手がかりに完成した。研削盤の油が漏れ出すなどのハプニングもあったが、明田さんは「彫りや仕上げを模索しながら作業し、無事完成できた」と感慨深げに話す。山添さんは「田辺さんの仕事を忠実に再現できたと思う。野生稲の保存を訴えるのに十分に大きな作品だ。世界中の人に見てもらいたい」と話している。

【横浜】貴婦人に愛された帽子 古代から女性たちを彩ってきたヘッドドレスの奥深い変遷をたどる。基本のスタイルの紹介やマナ

2016年11月特集上映

### 川崎ゆか 映画人

川崎ゆか (1948年 - )  
 川崎敬三 (1918年 - )  
 今村昌平 (1913年 - )  
 岡本喜八 (1913年 - )  
 ジョニー大倉 (1921年 - )  
 実相寺昭雄 (1923年 - )

### お知らせ

横浜南部市場大感謝祭 30日  
 午前8時から午後1時まで、横浜市金沢区鳥浜町の横浜南部市場。新鮮な魚や野菜の直売、マグロの解体ショーなど。友好交流を続ける山梨県道志村からの出店もある。動物戦隊ジュウオウジャーショーや白バイ展示など、子どもが楽しめる企画も。午後2時からは全日本プロレスの興行がある。シーサイドライン南部市場駅下車徒歩1分。問い合わせは実行委員会(045・779・2003)。

朝日カルチャーセンター  
 横浜 045・4563・1125  
 浜南 04566・2422125